

[ 東京大学 2013 年前期 理科 1 ]



実数  $a, b$  に対し平面上の点  $P_n(x_n, y_n)$  を

$$(x_0, y_0) = (1, 0), \quad (x_{n+1}, y_{n+1}) = (ax_n - by_n, bx_n + ay_n) \quad (n = 0, 1, 2, \dots)$$

によって定める。このとき、次の条件(i), (ii)がともに成り立つような  $(a, b)$  をすべて求めよ。

(i)  $P_0 = P_6$

(ii)  $P_0, P_1, P_2, P_3, P_4, P_5$  は相異なる。



条件より  $\begin{pmatrix} x_0 \\ y_0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & -b \\ b & a \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}$  と表せる。

$a = b = 0$  のとき、 $(x_6, y_6) = (0, 0)$  となるので不適。よって、 $(a, b) \neq (0, 0)$

$$\frac{a}{\sqrt{a^2 + b^2}} = \cos \theta, \quad \frac{b}{\sqrt{a^2 + b^2}} = \sin \theta \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

となる  $\theta$  が存在し、

$$\sqrt{a^2 + b^2} = r \quad (> 0) \text{ とおくと、 } a = r \cos \theta, b = r \sin \theta \text{ であり、 } \begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = r \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}$$

となるから、 $\overrightarrow{OP_{n+1}}$  は  $\overrightarrow{OP_n}$  を原点のまわりに  $\theta$  回転して  $r$  倍したものである。

よって、 $\overrightarrow{OP_6}$  は  $\overrightarrow{OP_0}$  を  $6\theta$  回転して  $r^6$  倍したものである。

したがって、 $P_0 = P_6$  が成り立つとき、 $6\theta = 2k\pi$  ( $k$  は整数)、 $r^6 = 1$  が成り立つ。

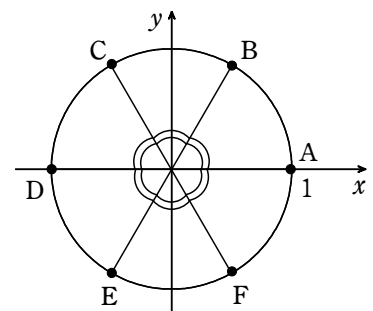
これから  $r = 1, \theta = \frac{k}{3}\pi$  ( $k = 0, 1, \dots, 5$ ) となる、

$\theta = 0, \frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi$  のとき  $P_3 = P_0$  となり不適。

$\theta = \pi$  のとき  $P_2 = P_0$  となり不適。

$\theta = \frac{\pi}{3}$  のとき  $P_0, \dots, P_5$  は順に図の A, B, C, D, E, F となる。

$\theta = \frac{5}{3}\pi$  のとき  $P_0, \dots, P_5$  は順に図の A, F, E, D, C, B となる。



よって、 $(a, b) = \left( \frac{1}{2}, \pm \frac{\sqrt{3}}{2} \right)$

[ 東京大学 2013 年前期 理科 2 ]



$a$  を実数とし,  $x > 0$  で定義された関数  $f(x), g(x)$  を次のように定める。

$$f(x) = \frac{\cos x}{x}, g(x) = \sin x + ax$$

このとき  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフが  $x > 0$  において共有点をちょうど 3 つ持つような  $a$  をすべて求めよ。



$\frac{\cos x}{x} = \sin x + ax \cdots \textcircled{1}$ ,  $x > 0$  を満たす実数  $x$  が 3 個あるような  $a$  を求めればよい。

$x > 0$  のとき  $\textcircled{1} \Leftrightarrow a = \frac{\cos x - x \sin x}{x^2}$  である。

$$h(x) = \frac{\cos x - x \sin x}{x^2} \quad (x > 0) \text{ とおくと,}$$

曲線  $y = h(x)$  と直線  $y = a$  が 3 個の共有点をもつような  $a$  を求めればよい。

$$h'(x) = \frac{(-\sin x - \sin x - x \cos x)x^2 - (\cos x - x \sin x) \cdot 2x}{x^4} = \frac{-\cos x(x^2 + 2)}{x^3} \text{ より}$$

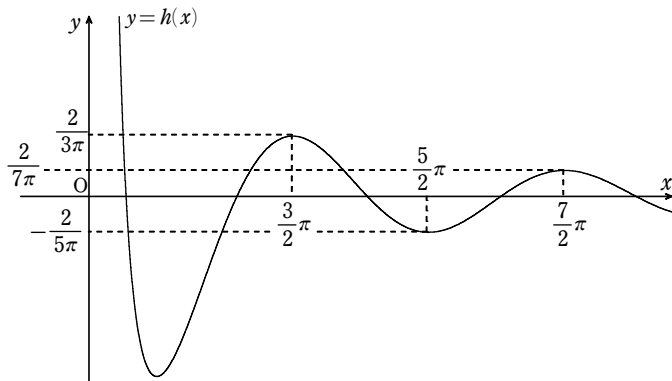
$h'(x)$  と  $-\cos x$  は同符号で,  $k$  を非負整数として

$$h(x) \text{ は } x = \left(2k + \frac{1}{2}\right)\pi \text{ のとき 極小値 } -\frac{2}{(4k+1)\pi} \cdots \textcircled{2}$$

$$x = \left(2k + \frac{3}{2}\right)\pi \text{ のとき 極大値 } \frac{2}{(4k+3)\pi} \cdots \textcircled{3}$$

をとり,  $k$  について②は単調増加, ③は単調減少である。

また,  $\lim_{x \rightarrow +0} h(x) = \infty$  であるから,  $y = h(x)$  のグラフは図のようになる。



よって, 3 個の共有点をもつのは  $a = -\frac{2}{5\pi}$ ,  $\frac{2}{7\pi} < a < \frac{2}{3\pi}$  のとき。

[ 東京大学 2013 年前期 理科 3 ]



A, B の 2 人がいる。投げたとき表裏の出る確率がそれぞれ  $\frac{1}{2}$  のコインが 1 枚あり、最初は A がそのコインを持っている。次の操作を繰り返す。

(i) A がコインを持っているときは、コインを投げ、表が出れば A に 1 点を与え、コインは A がそのまま持つ。裏が出れば、両者に点を与えず、A はコインを B に渡す。

(ii) B がコインを持っているときは、コインを投げ、表が出れば B に 1 点を与え、コインは B がそのまま持つ。裏が出れば、両者に点を与えず、B はコインを A に渡す。

そして、A, B のいずれかが 2 点を獲得した時点で、2 点を獲得した方の勝利とする。たとえば、コインが表, 裏, 表, 表とでた場合、この時点で A は 1 点, B は 2 点を獲得しているので、B の勝利となる。

(1) A, B 合わせてちょうど  $n$  回コインを投げ終えたときに A の勝利となる確率  $p(n)$  を求めよ。

(2)  $\sum_{n=1}^{\infty} p(n)$  を求めよ。



(1) ある回に A が投げ、その回も含めて、裏が偶数回 (0 回も含む) 連続して出ると、その次は A が投げ、裏が奇数回連続して出ると、その次は B が投げる。ある回に B が投げた時も同様。

よって、A の勝利となるのは、次の 3 つの場合がある。

(I)  $\underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{偶数}} \text{A表} \text{①} \underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{偶数}} \text{A表}$

(II)  $\underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{偶数}} \text{A表} \text{②} \underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{奇数}} \text{B表} \text{③} \underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{奇数}} \text{A表}$

(III)  $\underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{奇数}} \text{B表} \text{④} \underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{奇数}} \text{A表} \text{⑤} \underbrace{\text{裏裏}\cdots\text{裏}}_{\text{偶数}} \text{A表}$

(I) のとき合計偶数回、

(II)(III) のとき合計奇数回である。

(i)  $n$  が偶数のとき

$n = 2k$  とおくと、(I) の①は奇数回目であり、 $1, 3, \dots, 2k-1$  の  $k$  通りある。

よって、 $p(2k) = \frac{k}{2^{2k}} \cdots \text{⑥}$

(ii)  $n$  が奇数のとき

$n = 2k + 1$  とおくと,

(II)の②③はともに奇数回目で, 1から  $2k$  までに奇数は  $k$  個あるから,

②③の選び方は  ${}_k C_2$  通り。

(III)の④⑤はともに偶数回目で, 1から  $2k$  までに偶数は  $k$  個あるから

④⑤の選び方は  ${}_k C_2$  通り。

$$\text{よって } p(2k+1) = \frac{{}_k C_2 \times 2}{2^{2k+1}} = \frac{k(k-1)}{2^{2k+1}} \dots \textcircled{7}$$

したがって,  $n$  が偶数のとき ⑥で  $k = \frac{n}{2}$  として  $p(n) = \frac{1}{2^n} \cdot \frac{n}{2} = \frac{n}{2^{n+1}}$

$$n \text{ が奇数のとき } \textcircled{7} \text{ で } k = \frac{n-1}{2} \text{ として } p(n) = \frac{1}{2^n} \cdot \frac{n-1}{2} \cdot \frac{n-3}{2} = \frac{(n-1)(n-3)}{2^{n+2}}$$

( $n=1$  でも成り立つ)

(2)  $\sum_{n=1}^m p(n) = S_m$  とおく。

(i)  $m$  が奇数のとき

$m = 2j + 1$  とおくと

$$S_{2j+1} = \sum_{k=1}^j \{p(2k) + p(2k+1)\} = \sum_{k=1}^j \left\{ \frac{k}{2^{2k}} + \frac{k(k-1)}{2^{2k+1}} \right\} = \sum_{k=1}^j \frac{k(k+1)}{2^{2k+1}} \text{ であるから}$$

$$S_{2j+1} = \frac{1 \cdot 2}{2^3} + \frac{2 \cdot 3}{2^5} + \frac{3 \cdot 4}{2^7} + \dots + \frac{j(j+1)}{2^{2j+1}} \dots \textcircled{8}$$

$$\frac{1}{4} S_{2j+1} = \frac{1 \cdot 2}{2^5} + \frac{2 \cdot 3}{2^7} + \dots + \frac{(j-1)j}{2^{2j+1}} + \frac{j(j+1)}{2^{2j+3}} \dots \textcircled{9}$$

$$\textcircled{8} - \textcircled{9} \text{ より } \frac{3}{4} S_{2j+1} = \frac{2}{2^3} + \frac{4}{2^5} + \frac{6}{2^7} + \dots + \frac{2j}{2^{2j+1}} - \frac{j(j+1)}{2^{2j+3}}$$

$$S_{2j+1} = \frac{1}{3} \left( 1 + \frac{2}{4} + \frac{3}{4^2} + \dots + \frac{j}{4^{j-1}} \right) - \frac{j(j+1)}{3 \cdot 2^{2j+1}}$$

ここで,  $T_j = 1 + \frac{2}{4} + \frac{3}{4^2} + \dots + \frac{j}{4^{j-1}} \dots \textcircled{10}$  とおくと

$$\frac{1}{4} T_j = \frac{1}{4} + \frac{2}{4^2} + \dots + \frac{j-1}{4^{j-1}} + \frac{j}{4^j} \dots \textcircled{11}$$

$$\textcircled{10} - \textcircled{11} \text{ より } \frac{3}{4} T_j = 1 + \frac{1}{4} + \frac{1}{4^2} + \dots + \frac{1}{4^{j-1}} - \frac{j}{4^j}$$

$$\lim_{j \rightarrow \infty} \frac{3}{4} T_j = \frac{1}{1 - \frac{1}{4}} - 0 = \frac{4}{3} \quad \text{よ} \ddot{\text{r}} \quad \lim_{j \rightarrow \infty} T_j = \frac{16}{9}$$

$$\text{さらに, } \lim_{j \rightarrow \infty} \frac{j(j+1)}{3 \cdot 2^{2j+1}} = 0 \quad \text{である} \text{こと} \text{から} \quad \lim_{j \rightarrow \infty} S_{2j+1} = \frac{1}{3} \cdot \frac{16}{9} = \frac{16}{27}$$

(ii)  $m$  が偶数のとき

$$m = 2j \quad \text{とおくと}$$

$$S_{2j} = S_{2j+1} - p(2j+1) \quad \text{であり}$$

$$\lim_{j \rightarrow \infty} p(2j+1) = 0 \quad \text{である} \text{から} \quad \lim_{j \rightarrow \infty} S_{2j} = \lim_{j \rightarrow \infty} S_{2j+1}$$

$$\text{よ} \ddot{\text{r}} \text{て} \quad \sum_{n=1}^{\infty} p(n) = \frac{16}{27}$$

△ABC において  $\angle BAC = 90^\circ$ ,  $|\overline{AB}| = 1$ ,  $|\overline{AC}| = \sqrt{3}$  とする。△ABC の内部の点 P が

$$\frac{\overline{PA}}{|\overline{PA}|} + \frac{\overline{PB}}{|\overline{PB}|} + \frac{\overline{PC}}{|\overline{PC}|} = \vec{0} \text{ を満たすとする。}$$

(1)  $\angle APB$ ,  $\angle APC$  を求めよ。

(2)  $|\overline{PA}|$ ,  $|\overline{PB}|$ ,  $|\overline{PC}|$  を求めよ。

(1)  $\frac{\overline{PA}}{|\overline{PA}|} + \frac{\overline{PB}}{|\overline{PB}|} + \frac{\overline{PC}}{|\overline{PC}|} = \vec{0}$  から  $\left| \frac{\overline{PA}}{|\overline{PA}|} + \frac{\overline{PB}}{|\overline{PB}|} \right|^2 = \left| -\frac{\overline{PC}}{|\overline{PC}|} \right|^2$

$$\left| \frac{\overline{PA}}{|\overline{PA}|} \right|^2 + \left| \frac{\overline{PB}}{|\overline{PB}|} \right|^2 + 2 \frac{\overline{PA} \cdot \overline{PB}}{|\overline{PA}| |\overline{PB}|} = \left| \frac{\overline{PC}}{|\overline{PC}|} \right|^2 = 1 \text{ であるから}$$

$$2 + 2 \cdot \frac{\overline{PA} \cdot \overline{PB}}{|\overline{PA}| |\overline{PB}|} = 1 \text{ より } \frac{\overline{PA} \cdot \overline{PB}}{|\overline{PA}| |\overline{PB}|} = -\frac{1}{2}$$

よって  $\angle APB = 120^\circ \dots \textcircled{1}$

同様にして  $\angle APC = 120^\circ \dots \textcircled{2}$

(2) 図のように座標設定する。

より P は図の D を中心とする半径 DA の円  $C_1$  上にあり、

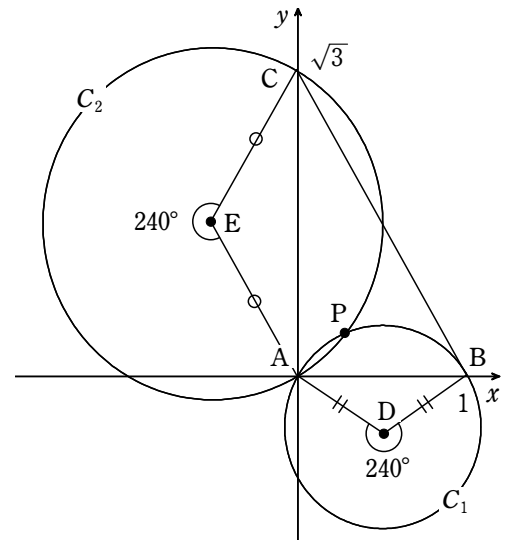
②より P は図の E を中心とする半径 EA の円  $C_2$  上にある。

△ADB, △AEC は頂角  $120^\circ$  の二等辺三角形だから

$$D \left( \frac{1}{2}, -\frac{1}{2\sqrt{3}} \right) = \left( \frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{6} \right), \quad E \left( -\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2} \right)$$

よって,  $C_1$  は  $\left( x - \frac{1}{2} \right)^2 + \left( y + \frac{\sqrt{3}}{6} \right)^2 = \frac{1}{3} \Leftrightarrow x^2 - x + y^2 + \frac{\sqrt{3}}{3}y = 0 \dots \textcircled{3}$

$$C_2 \text{ は } \left( x + \frac{1}{2} \right)^2 + \left( y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 = 1 \Leftrightarrow x^2 + x + y^2 - \sqrt{3}y = 0 \dots \textcircled{4}$$



$$\textcircled{3}-\textcircled{4}\text{より } -2x + \frac{4}{3}\sqrt{3}y = 0 \Leftrightarrow y = \frac{\sqrt{3}}{2}x$$

$$\textcircled{4}\text{に代入して } \frac{7}{4}x^2 - \frac{1}{2}x = 0 \text{ より } x = 0, \frac{2}{7}$$

よって  $P\left(\frac{2}{7}, \frac{\sqrt{3}}{7}\right)$  である。

$$\overline{AP} = \frac{1}{7} \begin{pmatrix} 2 \\ \sqrt{3} \end{pmatrix}, \overline{BP} = \frac{1}{7} \begin{pmatrix} -5 \\ \sqrt{3} \end{pmatrix}, \overline{CP} = \frac{2}{7} \begin{pmatrix} 1 \\ -3\sqrt{3} \end{pmatrix} \text{ となるので}$$

$$|\overline{PA}| = \frac{\sqrt{7}}{7}, |\overline{PB}| = \frac{2\sqrt{7}}{7}, |\overline{PC}| = \frac{4\sqrt{7}}{7}$$

[ 東京大学 2013 年前期 理科 5 ]



次の命題 P を証明したい。

命題 P 次の条件 (a), (b) をともに満たす自然数 (1 以上の整数)  $A$  が存在する。

(a)  $A$  は連続する 3 つの自然数の積である。

(b)  $A$  を 10 進法で表したとき, 1 が連続して 99 回以上現れるところがある。

以下の問いに答えよ。

(1)  $y$  を自然数とする。このとき不等式  $x^3 + 3yx^2 < (x + y - 1)(x + y)(x + y + 1) < x^3 + (3y + 1)x^2$  が成り立つような正の実数  $x$  の範囲を求めよ。

(2) 命題 P を証明せよ。



(1)

(i)  $x^3 + 3yx^2 < (x + y - 1)(x + y)(x + y + 1)$  について

$$\begin{aligned} x^3 + 3yx^2 < (x + y)^3 - (x + y) &\Leftrightarrow 3y^2x + y^3 - (x + y) > 0 \\ &\Leftrightarrow (3y^2 - 1)x + y(y^2 - 1) > 0 \end{aligned}$$

$y \geq 1$  であるから  $x > 0$  であれば常に成り立つ。

(ii)  $(x + y - 1)(x + y)(x + y + 1) < x^3 + (3y + 1)x^2$  について

$$x^2 - (3y^2 - 1)x - (y^3 - y) > 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$$D = (3y^2 - 1)^2 + 4(y^3 - y) = 9y^4 + 4y^3 - 6y^2 - 4y + 1 \quad \text{とおくと}$$

$$\textcircled{1} \text{の解は } x < \frac{(3y^2 - 1) - \sqrt{D}}{2}, \frac{(3y^2 - 1) + \sqrt{D}}{2} < x$$

$$x > 0 \quad \text{なので } x > \frac{(3y^2 - 1) + \sqrt{D}}{2}$$

$$\text{よって, (i)かつ(ii)を満たす } x (> 0) \text{ は } x > \frac{3y^2 - 1 + \sqrt{9y^4 + 4y^3 - 6y^2 - 4y + 1}}{2}$$

(2)  $y$  を  $3y = \underbrace{111 \cdots 1}_{99 \text{個}}$  を満たす整数とする。

また,  $x$  を  $x = 10^n$  ( $n \geq 99$ ) とおくと,

$$x^3 = \underbrace{1000 \cdots 0}_{0 \text{が} 3n \text{個}}, \quad x^2 = \underbrace{1000 \cdots 0}_{0 \text{が} 2n \text{個}}, \quad 3yx^2 = \underbrace{111 \cdots 111}_{1 \text{が} 99 \text{個}} \underbrace{000 \cdots 0}_{0 \text{が} 2n \text{個}}$$



$$x^3 + 3yx^2 = \underbrace{1000 \cdots 0}_{0\text{が}n-99\text{個}} \underbrace{1111 \cdots 11}_{1\text{が}99\text{個}} \underbrace{000 \cdots 0}_{0\text{が}2n\text{個}} \cdots \textcircled{2}$$

$$x^3 + (3y+1)x^2 = \underbrace{1000 \cdots 0}_{0\text{が}n-99\text{個}} \underbrace{1111 \cdots 1112}_{1\text{が}98\text{個}} \underbrace{000 \cdots 0}_{0\text{が}2n\text{個}} \cdots \textcircled{3}$$

$x, y$ は(1)を満たす自然数であるから

$(x+y-1)(x+y)(x+y+1)$ は3つの連続する自然数の積で

②と③の間にあり、 $\underbrace{1000 \cdots 0}_{0\text{が}n-99\text{個}} \underbrace{1111 \cdots 111}_{1\text{が}99\text{個}} \underbrace{\cdots \cdots \cdots}_{2n\text{個の数字}}$ の形になる。

[ 東京大学 2013 年前期 理科 6 ]



座標空間において、 $xy$  平面内で不等式  $|x| \leq 1, |y| \leq 1$  により定まる正方形  $S$  の 4 つの頂点を  $A(-1, 1, 0), B(1, 1, 0), C(1, -1, 0), D(-1, -1, 0)$  とする。正方形  $S$  を、直線  $BD$  を軸として回転させてできる立体を  $V_1$ 、直線  $AC$  を軸として回転させてできる立体を  $V_2$  とする。

- (1)  $0 \leq t < 1$  を満たす実数  $t$  に対し、平面  $x=t$  による  $V_1$  の切り口の面積を求めよ。  
 (2)  $V_1$  と  $V_2$  の共通部分の体積を求めよ。



(1)  $xyz$  空間の原点を  $O$  とし、 $V_1$  の点を  $X(x, y, z)$  とおく。

(i)  $x+y \geq 0$  …① のとき

$X$  の満たすべき条件は、 $\angle XBO \leq \angle ABO = \frac{\pi}{4}$

$$\text{よって、} \cos \angle XBO \geq \frac{1}{\sqrt{2}} \Leftrightarrow \frac{\overline{BX} \cdot \overline{BO}}{|\overline{BX}| |\overline{BO}|} \geq \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$\text{これと } \overline{BX} = \begin{pmatrix} x-1 \\ y-1 \\ z \end{pmatrix}, \overline{BO} = \begin{pmatrix} -1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ より}$$

$$\frac{-x-y+2}{\sqrt{(x-1)^2 + (y-1)^2 + z^2} \sqrt{2}} \geq \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$\Leftrightarrow -x-y+2 \geq \sqrt{(x-1)^2 + (y-1)^2 + z^2}$$

$$\text{よって } -x-y+2 \geq 0 \text{ …② かつ } (-x-y+2)^2 \geq (x-1)^2 + (y-1)^2 + z^2 \text{ …③}$$

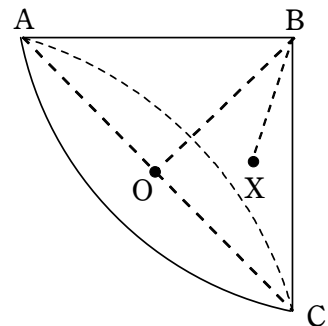
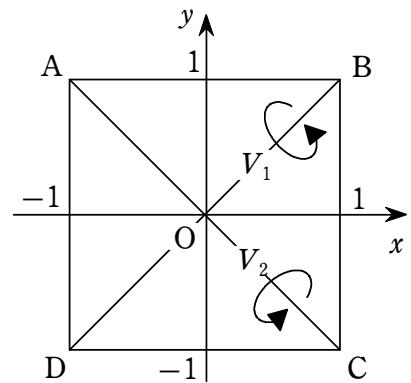
$$\text{③より } 2xy - 2x - 2y + 2 - z^2 \geq 0 \text{ …④}$$

$$\text{①②④で } x=t \text{ として、切り口は } -t \leq y \leq 2-t, y \leq 1 - \frac{z^2}{2(1-t)} \text{ …⑤}$$

(ii)  $x+y \leq 0$  のとき

(i) の  $x, y$  をそれぞれ  $-x, -y$  にすればよいから、

$$\text{⑤の } t, y \text{ をそれぞれ } -t, -y \text{ にして、} t \leq -y \leq 2+t, -y \leq 1 - \frac{z^2}{2(1-t)} \text{ より}$$



$$-2-t \leq y \leq -t, y \geq \frac{z^2}{2(1-t)} - 1$$

以上と、 $0 \leq t < 1$  より  $2-t > 1, -2-t < -1$  であることから

切り口は図の斜線部分。

$\alpha = \sqrt{2(1-t^2)}$  とおくと、面積は

$$\begin{aligned} \int_{-\alpha}^{\alpha} \left\{ \left( 1 - \frac{z^2}{2(1-t)} \right) - \left( \frac{z^2}{2(1+t)} - 1 \right) \right\} dz &= \int_{-\alpha}^{\alpha} \left\{ \frac{1}{2(1-t)} + \frac{1}{2(1+t)} \right\} (z+\alpha)(z-\alpha) dz \\ &= \left\{ \frac{1}{2(1-t)} + \frac{1}{2(1+t)} \right\} \frac{\{\alpha - (-\alpha)\}^3}{6} \\ &= \frac{1}{(1-t)(1+t)} \cdot \frac{4}{3} \left\{ \sqrt{2(1-t^2)} \right\}^3 \\ &= \frac{8}{3} \sqrt{2(1-t^2)} \end{aligned}$$

(2) 正方形は  $x$  軸に関して対称、 $BD$  と  $AC$  も  $x$  軸に関して対称だから、

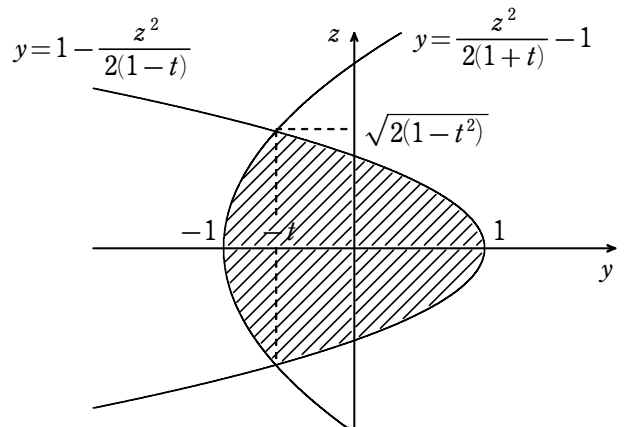
$V_1$  と  $V_2$  は  $xz$  平面に関して対称。

よって、 $V_2$  を平面  $x=t$  ( $0 \leq t < 1$ ) で切った切り口は、(1) と  $z$  軸に関して対称である。

これと(1)の共通部分が  $V_1$  と  $V_2$  の共通部分  $D$  を  $x=t$  で切った切り口で、図の斜線部のようになる。

切り口の面積は

$$\begin{aligned} &2 \int_{-\sqrt{2(1-t)}}^{\sqrt{2(1+t)}} \left\{ 1 - \frac{z^2}{2(1-t)} \right\} dz \\ &= 2 \times \frac{1}{2(1-t)} \cdot \frac{1}{6} \left\{ 2\sqrt{2(1-t)} \right\}^3 \\ &= \frac{8\sqrt{2}}{3} \sqrt{1-t} \end{aligned}$$



また、 $D$  は  $x=0$  に関して対称だから、

$$D \text{ の体積は } 2 \times \int_0^1 \frac{8\sqrt{2}}{3} \sqrt{1-t} dt = \left[ -\frac{32}{9} (1-t)^{\frac{3}{2}} \right]_0^1 = \frac{32\sqrt{2}}{9}$$